

慶応義塾と佐伯藩出身者

慶応義塾大学で入手した資料コピー

麻 生 英 臣

(会員・東京都世田谷区)

去る十一月二十五日、久しぶりに訪れた母校、三田の丘は美しい秋の紅葉にかこまれた、昔ながらのたたずまいを呈していました。

後輩の坂井達郎・文学部国史科助教から現在の塾ぶりの話を聞かされたついでに、目下彼などが中心になって大変膨大な記念作業を旧図書館内で行っている現場を案内してもらいました。それは明治初期、福沢塾頭時代全国からの入塾申請書オリジナルの写真を四巻に編纂しているところでした。現在、佐伯史談誌にて御手洗一而氏「明治の佐伯三青年―龍溪・鳴鶴・鶴谷―」が連載されていることもあり、当時の佐伯藩出身者にどんな人がいるか、よく保存された百年以上の原台帖をめくらせてもらいましたところ、次々と発見することが出来、一つの興奮をおぼえました。いくつかコピーを特別にと

らせていただきましたので、茲許参考資料として送付いたします。

(一) 矢野龍溪は臼杵出身の荘田平五郎氏(後三菱合名の大番頭となり、その後の三菱財閥の基礎を作った有名な人物)が保証人となっているわけですが、二十二歳にしてきれいな自筆で記しています。彼の写真もありますが、細おもてのナイーブな知性あふるる青年であったことがわかります。福沢翁じきじきに教えた当時の生徒数は約一万五千名程度であったことがわかりますが、この膨大な各自の申請者の筆蹟がいずれも達筆且つ生き生きしている点に、学問に情熱をたぎらした当時の若者の心意気がしのべれます。

(二) 明治五年八月の塾生成績表をみますと、矢野龍溪は

超優秀生グループに属し、中津出身の中上川彦二郎（後、三井合名の大番頭になり、その後の三井財閥の基礎を作り、日本一の財界人を自認した）の横に名前が出ていることからして、いかに頭脳の優れた人間であったかがしのげられます。この表の中に曰杵市出身の若き箕浦勝人がいますが、後この人物が塾生の首席の座についているのが別の成績表でわかります。

当時、慶応義塾は年齢の差なく誰でも自由に入学出来、思い思いの授業を撰択出来たわけで、学業修了証は発行したものの学校卒業証書というものはなかったことがわかります。

福沢翁は英国を訪れた時、英国の教育事情を調べていることがわかりますが、そこでの小さなモデル塾にヒントを得、それを東京で試みたことがわかります。

(三) 当時の塾生を出身県別に分類しますと、大分県は三百五十一名となり（内佐伯出身が、おそらく五%以上いるのではないかと考えられます）全国シェアでも上位にあります。しかもいずれも優秀生であったわけで日本近代史上、特に金融・工業・ジャーナリズムで不朽の名を残している人が多いといえます。

さて、現下の地方の時代を想う時、平松知事が「廃県置藩論」を唱えておられることに、私達佐伯史談会は大きな役割を期待されることに気づくべきです。城下町佐伯を今後、いかに発展さすかにつき、市民が集って学び論議する場として、塾的ムードのある「鶴谷学館」の再興を市民ともども検討したいものです。

明治時代、もし矢野龍溪が東京か大阪に鶴谷学館を移しておけば、現在の慶応義塾より大きな学校法人によっていたかも知れなかったと思えてなりません。

